



国税庁 長官官房 総務課 課長補佐  
**澤 美帆** 平成30年入庁

財務省主税局調査課、熱田税務署法人調査官、内閣官房給付事業企画室、国税庁資産評価企画官補佐などを経て令和7年から現職。

国税庁の  
窓口として



国税庁で働くということ

社会経済の構造変化に伴い、税務行政をとりまく環境も絶えず変化しています。様々な角度からやってくる課題に適時適切に対応するためには、国税当局の施策はもちろんのこと、他省庁の施策も含めアンテナ高く、幅広い物事についてのインプットや経験が大事だと思います。そして、一見、税に無関係に思えるインプットや経験だとしても、国税庁で働いている中で、ふと、それらがつながる場面があります。それは「税」が幅広く経済・社会・行政と結びついていることを改めて実感する瞬間でもあるとともに、国税庁で働くのを面白く感じる瞬間でもあります。このパンフレットを手にとっている皆様が少しでも国税庁の仕事を面白そうだと思っていただけると嬉しいです。



総務課の仕事とは

長官官房では、税務行政全体を横断的にマネジメントし、組織内外の調整を担っています。その中でも、総務課は、特に幅広い分野にわたる業務を通じて、組織運営の基盤を支えています。例えば、国会事務や国税組織の機構定員の検討、組織の在り方の見直し、行政文書の取扱い、情報公開法に基づく開示請求への対応など、まさに庁内の「なんでも屋さん」です。

私が担当する総務課審査企画係も、国税庁の窓口として様々な方面から寄せられる案件への対応、政府が一体となって取り組んでいくべき施策における国税庁全体の対応方針の検討や防災訓練の実施等、幅広い業務を行っています。

社会的関心や課題を踏まえて策定される政府方針に国税当局がどのように取り組んでいくか。施策の担当が複数にまたがる場合、施策の方向性がバラバラになってしまわないように、他省庁の施策や既存の施策も見ながら、全体の方向性のある程度示して、担当に検討をお願いするのが、総務課の仕事の要です。時には、それぞれの個別施策を横断的に見て、横並びを調整する場面もあります。もちろん、個別施策は担当課が細部まで検討してきたものなので、「調整」といっても簡単なものではありませんが、あるべき姿を見据えて、意見を交わし、日々業務に取り組んでいます。

長官官房  
の  
組織(抜粋)

総務課

国税庁の玄関

国税庁の窓口として、庁内の総合調整、税法のガイドライン案(通達案)などの審査、情報公開、国会との連絡調整など、その守備範囲は多岐にわたります。

広報広聴室

国税庁のスポークスマン

納税コンプライアンス向上のため、租税教育や「税を考える週間」を通して、税の意義や役割を対外的にPRするなど、納税者と国税当局との双方向の意見交換を推進しています。

人事課

国税庁最大の武器「人」を育てる

国税職員の採用、研修、任用などの人事業務を通じて、国税庁最大の武器である「人」の確保と育成に力を注いでいます。

会計課

予算面から税務行政をサポート

組織は「ヒト」「モノ」「カネ」で成り立っていると言われていています。会計課は、予算の計画・執行、物品の調達・管理など、「カネ」や「モノ」の面から税務行政を支えています。

企画課

税務行政のグランドデザインを描く

未来の税務行政のグランドデザインを描くため、ICTやマイナンバー制度の活用に向けた検討、電子行政の推進、海外の税務行政のリサーチなど、国税庁の「経営戦略部」としての役割を担っています。

国際業務課

世界へと飛躍する国税庁のフィールド

税に関する国際的な枠組みづくりの検討、外国税務当局との情報交換、発展途上国に対する税務行政支援など、日の丸を背負ってグローバルな仕事をしています。

相互協議室

巨額マネーをめぐる国際交渉

国際的に生じた「二重課税」を解消するため、外国税務当局と交渉しています。我が国の税収の確保のため、日々エキスパート達が世界と議論しています。